

「生まれた日」新聞に 奥州・若柳小

奥州市胆沢の若柳小（小原睦子校長、児童111人）の6年生21人は、プラス日報の新聞製作ソフト「クミハン」を使って「自分の生まれた日」を伝える新聞を作り、生き方を考えるキャリア学習をしている。

紙面は記事2本で構成。1本目は誕生の様子や名前の由来を家族に聞き、2本目はプラス日報の記事検索機能で生まれた日に古里で起きた出来事を調べて要約

した。宿題や4月の授業参観で行い、家族のコメントを入れて6月に完成した。阿部快聖さんと安倍瑠那さんは「生まれた日に何があったかや名前の由来を知ることができた」と充実。担任の小林あゆみ教諭は「記事を選ぶ自由度が高く、将来や古里への考えの広がりや深みが増す」とプラス日報の利点を述べた。

2学期は仕事について住民や保護者から学んで新聞製作ソフトでまとめ、記事検索機能で地域文化も調べる予定。小原校長は「保護者も一緒になり『どんなふうに生きていきたいか』を考えさせたい。好奇心が広がるよう新聞を活用したい」と今後を見据える。



プラス日報を活用して行われた奥州・若柳小の授業参観

若柳小・キャリア教育：テーマとスタートの授業の流れ

★自分の生き方について考えよう★（課題）自分の「誕生の日」を知ろう

宿題 家族へのインタビュー

- 生まれた時の様子（体重、身長、時間など）
- 名前の由来
- 赤ちゃんの時の写真

授業

- ① プラス日報で、生まれた日の古里の出来事を調べて記事にする
- ② インタビューの記事を紙面化する



若柳小の児童が新聞製作ソフト「クミハン」を使って作った「自分の生まれた日」を伝える新聞

先生から



花巻中 高橋 萌々花教諭(26)
生徒たちには社会でどんなことが起こっているかを知り、自分の意見を持ってもらいたい。そのために新聞を読み、考えを書く活動に取り組んでいく。担当の国語科では「クミハン」を使って、学習した内容をまとめることができそう。例えば、竹取物語の良さを概要をまとめるなど活用していきたい。

生徒から



花巻中1年 菅原 千愛（ちあき）さん
プラス日報の「クミハン」は、文字の大きさなどを自分で選んでオリジナル新聞を作れるのが面白い。7月に校外学習で沿岸部に行くので、学んだ内容をまとめてみたい。クラブチームでサッカーをしているのでスポーツに関心があり、プラス日報を使って興味のある記事を読みたい。

岩手日報社が提供する学校向け新聞活用プログラムです。児童生徒の読解力や情報リテラシーの向上を図るとともに、授業に活用できるコンテンツで先生方をサポートします。

利用できる機能は?

① デジタル版紙面の閲覧 ② 過去約20年分の記事検索 ③ 新聞記事を題材にしたワークシート ④ 新聞製作ソフトなど。そのほか震災復興やふるさと学習、進路学習をサポートするコンテンツを提供しています。

どう使われている?

朝学習で新聞を読んだり、行事を振り返る個人新聞作りなど多様に活用されています。2025年度当初時点で、県内の公立小中学校の約40%の学校が利用しています。

ご依頼はこちら!

「+日報」についてより詳しく知りたい方は、岩手日報社プラス日報事務局の専用フォームからお問い合わせください。

